2022年度活動概要　　EAP研究会

EAP 研究会は、学部・大学院レベルの研究および教育で重要となる EAP 教育に関する理論と指導実践の研究を主な目的として活動している。2022 年度は、9 回の研究会およびミーティングを通じて研究を遂行した。オンラインでの研究活動も多かったが、今年度は対面での打ち合わせや発表を行うことができた。具体的には、英国の EAP 教員学会である BALEAP の EAP 教員コンピテンシー枠組みを基盤として開発した日本の EAP 教員向け自己評価ツールおよび BALEAP 質保証基準を参照して開発した日本版の質保証指標を公開するために、さらなる調査を行った。これらは、科研費 JP19H01286（「大学英語教育の質保証指標モデルと EAP 教員コア・コンピテンシー枠組の開発」研究代表者：飯島優雅）の一部として行った。

研究成果は、大学英語教育学会第 61 回国際大会（2022 年 8 月 25 日）での「大学英語教育における EAP 教育導入に向けた可能性」と題したシンポジウムと研究会の発表、そして第 5 回 JAAL in JACET 学術交流集会（2022 年 12 月 3 日）での研究発表を通じて公開した。また、JAAL in JACET Proceedings, vol.5（2023 年 3 月）でも論文を発表している。また、EAP 教員の自己評価ツールおよび EAP プログラム質保証指標はウェブページにて公開した。上述の科研費研究課題の最終年度であったため、質保証指標および EAP 教員コンピテンシー枠組み構築の研究成果をまとめ、飯島科研・TEAP プレイスメントテスト（仮称）共同研究合同シンポジウム（2023 年 2 月 13 日）においてハイブリッド形式で発表を行った。多くの参加者があり、EAP 教育への関心の高さが伺えた。来年度は、学生の EAP 能力の測定や評価の観点も含めた、日本の EAP 教育の質保証と充実に向けた研究を進める予定である。